

刑事妥速審判法

(下)

司 法 院 印 行

中華民國九十九年十月

刑事妥速審判法

(下)

司 法 院 印 行
中 華 民 國 九 十 九 年 十 月

刑事妥速審判法 / 司法院刑事廳編輯, -- 第一版.

-- 臺北市 : 司法院, 民 99.10

冊 ; 公分

ISBN 978-986-02-4998-9 (上冊: 平裝) .--

ISBN 978-986-02-4999-6 (下冊: 平裝)

1. 刑事審判

586.5

刑事妥速審判法(下)

編輯者 : 司法院刑事廳

出版機關 : 司法院

地址 : 臺北市重慶南路 1 段 124 號

電話 : (02) 23618577

網址 : <http://www.judicial.gov.tw>

出版 : 中華民國 99 年 10 月

版次 : 第一版

排版印刷 : 惟新有限公司

地址 : 臺北縣中和市中正路 803 號 8 樓之 1

電話 : (02) 22236829

定價 : 新臺幣參佰伍拾元整

版權所有・翻印必究

GPN : 1009903420

ISBN : 978-986-02-4999-6 (平裝)

刑事妥速審判法（上冊）

目 錄

一、刑事妥速審判法	1
二、最高法院九十九年度第九次刑事庭會議決議	3
三、刑事妥速審判法體系表	5
四、司法院刑事妥速審判法草案立法方向報告書	7
五、刑事妥速審判法總說明	15
六、刑事妥速審判法條文對照表	19
七、法院適用刑事妥速審判法應行注意事項	37
八、刑事妥速審判法問答集	47
九、「刑事妥速審判法」概要（朱石炎教授）	67
十、論刑事妥速審判法第七條減刑規定之適用 （何賴傑教授）	73
十一、刑事妥速審判法「羈押期限規定」與國際人權 （楊雲驊副教授）	95
十二、初論速審法限制檢方對無罪案件之上訴—美國 刑事不對稱上訴法制簡介（林超駿副教授）	105
十三、司法院因應刑事妥速審判法相關令函	119

刑事妥速審判法（下冊）

立法資料彙編

目 錄

一、「關於裁判迅速化之法律」日中條文對照表，2003 年.....	1
二、限制上訴之外國立法例.....	7
三、「減輕其刑」為侵害被告速審權救濟方式之理論 與實務	17
四、美國聯邦速審法（1974 年）	137
五、審查會通過、司法院函請審議、立法委員謝國樑 等 26 人擬具、立法委員柯建銘等 20 人擬具之 「刑事妥速審判法草案」條文對照表.....	167
六、我國有關刑事妥速審判法之文獻目錄.....	331

一、「關於裁判迅速化之法律」日中條文對照表

日文	中文
名稱	名稱
裁判の迅速化に関する法律	關於裁判迅速化之法律
(目的) 第 1 条 この法律は、司法を通じて権利利益が適切に実現されることその他の求められる役割を司法が十全に果たすために公正かつ適正で充実した手続の下で裁判が迅速に行われることが不可欠であること、内外の社会経済情勢等の変化に伴い、裁判がより迅速に行われることについての国民の要請にこたえることが緊要となっていること等にかんがみ、裁判の迅速化に関し、その趣旨、国の責務その他の基本となる事項を定めることにより、第一審の訴訟手続をはじめとする裁判所における手続全体の一層の迅速化を図り、もって国民の期待にこたえる司法制度の実現に資することを目的とする。	(目的) 第 1 條 為使司法能充分發揮其適切實現權利、利益及其他被賦予之功能，在公正且適正地在充實之程序下，迅速裁判乃不可或缺；且鑑於隨著國內外社會經濟情勢等變化，回應國民加速裁判之要求，已屬迫切等情事，關於裁判之迅速化，藉由制定其旨趣、國家之責任及其他基本事項，務使第一審訴訟程序等法院全體程序更加迅速化，用以實現符合國民期待之司法制度，特制定本法。

（裁判の迅速化）

第2条 裁判の迅速化は、第一審の訴訟手続については二年以内のできるだけ短い期間内にこれを終局させ、その他の裁判所における手続についてもそれぞれの手続に応じてできるだけ短い期間内にこれを終局させることを目標として、充実した手続を実施すること並びにこれを支える制度及び体制の整備を図ることにより行われるものとする。

裁判の迅速化に係る前項の制度及び体制の整備は、訴訟手続その他の裁判所における手続の整備、法曹人口の大幅な増加、裁判所及び検察庁の人的体制の充実、国民にとって利用しやすい弁護士体制の整備等により行われるものとする。

裁判の迅速化に当たっては、当事者の正当な権利利益が害されないよう、手続が公正かつ適正に実施されることが確保されなければならない。

（裁判之迅速化）

第2條 裁判之迅速化，第一審訴訟程序應儘速於二年以內之短期內終結，其他法院程序，應各依其程序儘速於短期內終結，並以此為目標，積極籌畫實施充實程序及建構支援此目標之制度與體制。

關於前項裁判迅速化之制度及體制之建構，應建構訴訟程序及其他法院程序、大幅增加法曹人口、充實法院及檢察廳之人事體制、建立便於國民利用之律師體制等。

裁判之迅速化，不得有害當事人正當之權利、利益，並應確保程序公正且適正實施。

(国の責務) 第 3 条 国は、裁判の迅速化（前条に規定する裁判の迅速化をいう。以下同じ。）を推進するため必要な施策を策定し、及び実施する責務を有する。	(國家之職責) 第 3 條 國家負有制定與實施推動裁判迅速化（前條所稱之裁判迅速化，下同）所必要政策之職責。
(法制上の措置等) 第 4 条 政府は、前条の施策を実施するため必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講じなければならない。	(法律上之措施等) 第 4 條 為實施前條政策，政府應採取法制上或財政上所必要之措施及其他措施。
(日本弁護士連合会の責務) 第 5 条 日本弁護士連合会は、弁護士之使命及び職務の重要性にかんがみ、裁判の迅速化に関し、国民による弁護士の利用を容易にするための弁護士の態勢の整備その他の弁護士の体制の整備に努めるものとする。	(日本律師全國聯合會之職責) 第 5 條 鑑於律師之使命及職務之重要性，就裁判之迅速化，日本律師全國聯合會應致力建立便於國民利用律師之環境及其他體制。
(裁判所の責務) 第 6 条 受訴裁判所その他の裁判所における手続を実施する者は、充実した手続を実施することにより、可能な限り裁判の迅速化に係る第二条第一項の目標を実現	(法院之職責) 第 6 條 受訴法院及其他實施法院程序之人，應實施充實之程序，致力實現第二條第一項有關裁判迅速化之目標。

するよう努めるものとする。	
（当事者等の責務） 第 7 条 当事者、代理人、弁護人その他の裁判所における手続において手続上の行為を行う者（次項において「当事者等」という。）は、可能な限り裁判の迅速化に係る第二条第一項の目標が実現できるよう、手続上の権利は、誠実にこれを行使しなければならない。 前項の規定は、当事者等の正当な権利の行使を妨げるものと解してはならない。	（當事人等之職責） 第 7 條 為致力實現第二條第一項有關裁判迅速化之目標，當事人、代理人、辯護人及其他參與法院程序而為訴訟行為之人（於第二項稱「當事人等」），應誠實行使程序上之權利。 前項之規定，不得解為得妨害當事人等正當權利之行使。
（最高裁判所による検正） 第 8 条 最高裁判所は、裁判の迅速化を推進するため必要な事項を明らかにするため、裁判所における手続に要した期間の状況、その長期化の原因その他必要な事項についての調査及び分析を通じて、裁判の迅速化に係る総合的、客観的かつ多角的な検証を行い、その結果を、二年ごとに、国民に明らかにするため公表するものとする。	（最高法院之檢討） 第 8 條 最高法院為使推動裁判迅速化所必要事項得以明確化，應透過就法院程序所需期間之狀況、其他長期化之原因及其他必要事項之調查與分析，進行有關裁判迅速化之綜合性、客觀性及多角度之檢討，並將其結果每二年向國民公開之。 前項檢討結果，於依第三條規定擬定及實施國家政策時，應予適當運用。

前項の検証の結果については、第三条の規定による国の施策の策定及び実施に当たって、適切な活用が図られなければならない。	
附則（施行期日） 1、この法律は、公布の日から施行する（最高裁判所による検証の結果の最初の公表）。 2、第八条の規定による検証の結果の最初の公表は、この法律の施行の日から二年以内に行うものとする。（検討） 3、政府は、この法律の施行後十年を経過した場合において、この法律の施行の状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。	附則（實施日期） 1、本法自公布之日起施行。（最高法院最初公布檢討結果） 2、第八條所定最初公布檢討結果，應於本法施行之日起二年內為之。 3、政府於本法施行十年後，應檢討本法施行狀況，如有必要，並應根據其結果採取必要措施。

二、限制上訴之外國立法例

編號	國別	內容大要	相關資料
1	美國	美國憲法增修條文第 5 條禁止有「雙重危險條款」，即對同一犯罪事實，被告不受二次生命或身體上之危險。因此被告受無罪判決後，檢察官不得對被告以同一犯罪事實再行起訴或上訴。(吾國速審法草案第 9 條第 1 項亦係依此相類法理)。	美國聯邦憲法第 5 修正案
2	日本	日本刑事訴訟法第 405 規定：「對於高等法院所為之第一審或第二審之判決，得以具有下列事由為理由，提出上告之聲請： 一、違反憲法或對憲法之解釋有錯誤者。 二、作出與最高法院判例相反之判斷。 三、在無最高法院之判例時，作出與大審院或作為上告法院之高等法院之判例，或本法施行後作為控訴法院之高等法院判例相反之判斷者」(吾國速審法草案第 9 條第 2 項係參考上開規定而定)。	日本刑事訴訟法第 405 條
3	德國	一、德國當事人對於輕微刑事案件不服者，尚有一次事實審及一次法律審之救濟機會，即採三級三審制。	1. 德國刑事法院組織及審級圖。 2. 司法院 97 年

		對於重大案件不服者，排除事實審之救濟機會，僅有法律審之救濟途徑，即採二級二審制。此與我國輕微案件原則上二審終結（我國刑事訴訟法第 376 條、第 455 條之 1 參照），重大案件始得上訴最高法院之制度尚有不同。 二、德國法上訴第三審（法律審，Revision）應附具理由，且具強制性，亦即須提出第三審上訴之聲請及理由，且該理由必須表明是因為違反程序方面的法律規範，或是因違反其他法律規範，於前者情形，並須提出表明瑕疵之事實（德國刑事訴訟法第 344 條）。第三審上訴理由之附具應最遲於提出第三審上訴之期間後一個月內為之；其由被告提起者，該上訴書狀應由辯護人或一律師簽名，或由書記官將之記載於筆錄（刑事訴訟法第 345 條）。辯護人對此項第三審上訴之理由敘述不僅必須簽名，且必須就內容加以敘述，而對之負責；如果辯護人「全盤地」接受被告所擬之上訴書狀，或辯護人對此由被告所擬具	度德國司法制度考察報告 52 至 59 頁
--	--	---	------------------------------

		之上訴書狀根本不加理睬，則此項第三審上訴之提起為無效。另外，依德國刑事訴訟法第 349 條第 2 項規定，上訴法院如果一致認為上訴顯無理由（<i>offensichtlich unbegründet</i>）時，可以依檢察官之聲請，以裁定駁回上訴。至何謂顯無理由，德國實務認為，對於任一法律專家而言，經由閱讀原判決及上訴理由，不須較長時間檢驗，即可辨識該上訴理由無法做到廢棄原判決之理由時，即可認為該上訴顯無理由。	
--	--	--	--

附註：

編號 1：美國聯邦憲法第 5 條修正案

Article[V.]

No person shall be held to answer for a capital, or otherwise infamous crime, unless on a presentment or indictment of a Grand Jury, except in cases arising in the land or naval forces, or in the Militia, when in actual service in time of War or public danger; nor shall any person be subject for the same offence to be twice put in jeopardy of life or limb; nor shall be compelled in any criminal case to be a witness against himself, nor be deprived of life, liberty, or property, without due process of law; nor shall private property be taken for public use, without just compensation.

編號 2：日本刑事訴訟法第 405 條

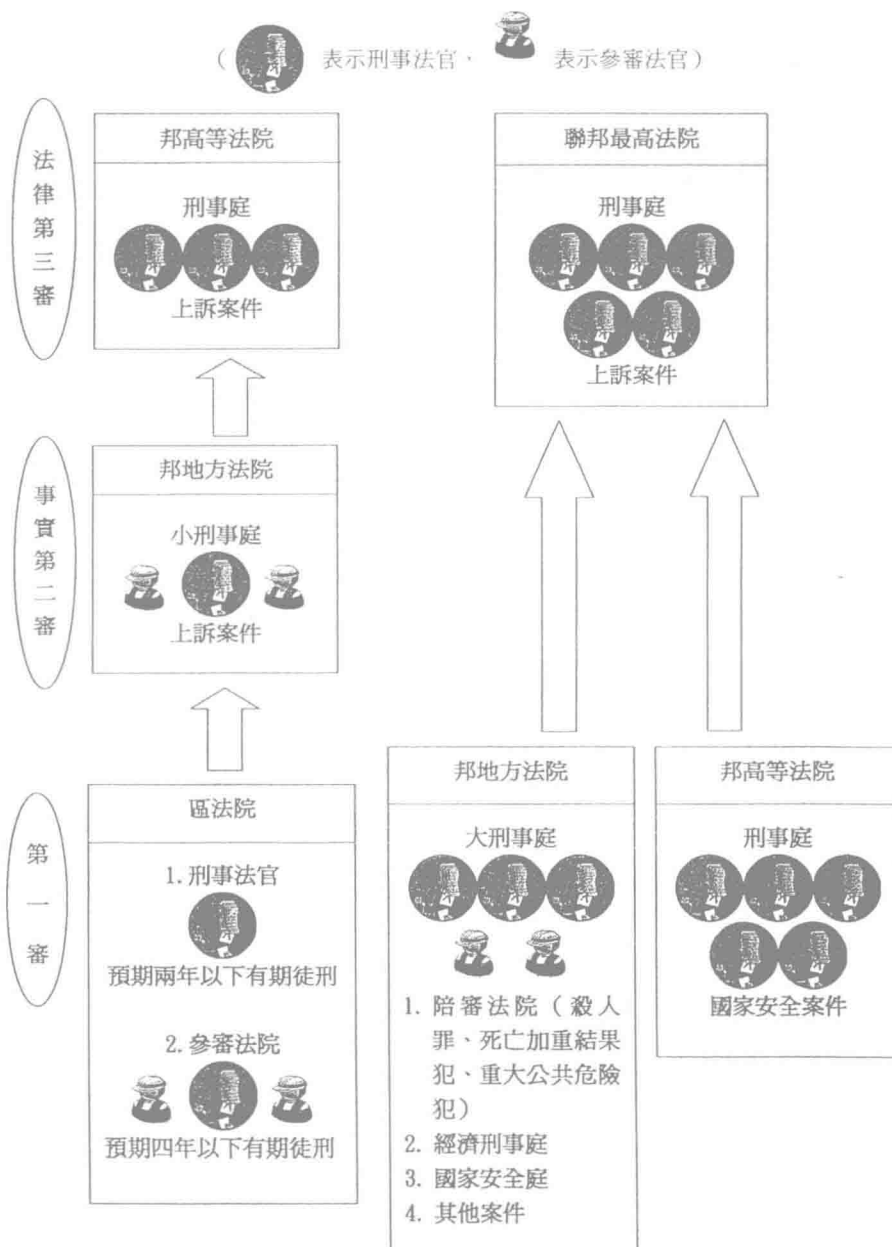
第三章 上告

第四〇五條 「上告のできる判決、上告申立ての理由」高等裁判所がした第一審又は第二審の判決に対しては、左の事由があることを理由として上告の申立をすることができる。

- 一 憲法の違反があること又は憲法の解釋に誤があること。
 - 二 最高裁判所の判例と相反する判断をしたこと。
 - 三 最高裁判所の判例がない場合に、大審院若しくは上告裁判所たる高等裁判所の判例又はこの法律施行後の控訴裁判所たる高等裁判所の判例と相反する判断をしたこと。
- 高等裁判所の第一審⇒裁一六（４）／高等裁判所の第二審⇒裁一六（１）／本条の理由のない場合の職權破棄⇒四一一／【一】違憲審査權⇒憲法八一、裁一〇（１）（２）／違憲判断事件の優先審判⇒刑訴規二五六／【二】判例の摘示⇒刑訴規二五三／判例違反⇒裁一〇（３）

編號 3：德國刑事法院組織及審級圖

1 德國刑事法院組織及審級圖



2 司法院 97 年度德國司法制度考察報告 52 至 59 頁

上訴制度

德國的上訴制度有二個目的，即確保法院對個案的決定是根據應適用的程序及實體法所作出，及統一法律解釋。通常救濟有三種：（1）Beschwerde，規定於刑事訴訟法第 301 條至第 311a 條，係指對法院在訴訟程序進行中所作的裁定所為上訴，也稱抗告。（2）Berufung，即一般上訴，指事實審的上訴，規定於刑事訴訟法第 312 條至 332 條。對於區法院獨任法官（刑事法官，Strafrichters）及參審法院（Schöffengerichts）之判決得提起第二審上訴（刑事訴訟法第 312 條）。至於不服邦地方法院大刑事庭（die Große Strafkammer）、陪審法院（Schwurgerichte）及邦高等法院所為之第一審判決，不得上訴第二審。但前述得提起第二審上訴之情形，亦有例外，即在輕微的法律上不利案件，如被判處 15 日額以下的罰金刑或罰鍰者，在符合一定要件下，才可提起第二審上訴。（3）Revision，即法律審上訴，指對法律適用錯誤的上訴，規定在刑事訴訟法第 333 條至第 358 條。對於邦高等法院之第一審判決、邦地方法院大刑事庭、陪審法院的第一審判決、邦地方法院小刑事庭的第二審判決均得提起法律審上訴（刑事訴訟法第 333 條）。此外，對於區法院刑事法官、參審法院的第一審判決，亦得在不向邦地方法院小刑事庭提起第二審上訴的情況下，直接向邦高等法院提起法律審上訴，此稱為越級上訴（Sprungrevision）（刑事訴訟法第 335 條）。

德國之審級制度，係以犯罪輕重做為法院審級分配之標準。如預期將判處二年以下有期徒刑之輕微案件，由區法院之獨任法官審理（法院組織法第 25 條第 2 項）；如預期將判處四年以下有期徒刑之犯罪，則由區法院之參審法院審理（法院組織法第 24 條），參審法院原則上由一名職業法官及二名參審員組成，並以職業法官為審判長，必要時，得組成「擴大參審法院」（erweitertes Schöffengericht），即增加一名職業法官。對區法院之獨任法官或參審法院之判決不服者，得上訴於邦地方法院由一名職業法官及二名參審員組成之「小刑事庭」（die Kleine Strafkammer）。若區法院之參審法院係屬擴大參審法院者，則上訴程序，亦增加一名職業法官（法院組織法第 76 條第 3 項）。對邦地方法